



御笠の森遺跡 調査区全景（北から）



御笠の森遺跡 調査区全景（南から）



SK01 (東から)



SK02 (東から)



SP02 (南から)

御笠の森遺跡 SK01・SK02・SP02完掘状況



報告書抄録

ふりがな	もりぞのいせき	てんじんだいせき	みかさのもりいせき					
書名	森園遺跡 5	天神田遺跡 2	御笠の森遺跡 8					
副書名	第9・10次調査	第2次調査	第19次調査					
巻次	5	2	8					
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第185集							
編集者名	澤田 康夫	山元 瞭平	木原 堯					
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-8510 大野城市曙町二丁目2番1号 電話 092 (501) 2211							
発行年月日	2021年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もりぞのいせき 森園遺跡 第9・10次調査	福岡県大野城市 川久保3丁目 279-6・10			33° 32' 49"	130° 29' 20"	(第9次) 20180417 ～ 20180515 (第10次) 20180521 ～ 20180605	(第9次) 約80㎡ (第10次) 約45㎡	個人住宅 建設
てんじんだいせき 天神田遺跡 第2次調査	福岡県大野城市 下大利4丁目 788-6、789-7			33° 30' 43"	130° 29' 18"	20180515 ～ 20180612	約60㎡	個人住宅 建設
みかさのもりいせき 御笠の森遺跡 第19次調査	福岡県大野城市 山田3丁目 180-4・5、 178-3・5			33° 32' 55"	130° 28' 28"	20190819 ～ 20190913	約66㎡	個人住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
森園遺跡 第9・10次調査	集落	弥生	ピット	弥生土器				
天神田遺跡 第2次調査	集落 生産遺跡	古代・中世	土坑・溝・ピット	須恵器・土師器				
御笠の森遺跡 第19次調査	集落	奈良・中世	土坑・ピット	土師器				
要約	森園遺跡は、大野城市川久保3丁目一帯の丘陵上に所在する。過去の調査から、弥生時代の住居址や甕棺墓が確認されている集落・墓地遺跡である。9・10次調査区は隣接しており、遺跡の南東部で調査を行った。両調査区ともに北側の遺構密度が高く、南側の遺構密度は低い状況が確認できた。		天神田遺跡は、牛頸山から北へと派生する低丘陵の先端部に位置する。過去の調査から、8世紀代の竪穴住居や土器溜り、11世紀末～12世紀前半の瓦器焼成遺構を確認している。2次調査区では、8世紀代の遺物や13世紀後葉～14世紀前葉の土師器小皿が出土しており、8世紀代の人活動と、12世紀前半以降の土地利用が確認された。		御笠の森遺跡は、御笠川西岸の沖積平野上に広がっており、大野城市山田2・3丁目に所在する。過去の調査から、11世紀中ごろ～17世紀にかけて集落が継続することが明らかになっており、『筑前国統風土記拾遺』に記載された「山田村」に比定される。19次調査区は遺跡の縁辺部に当たり、主に11世紀中ごろ～12世紀にかけての遺物が出土しており、中世集落の展開を考える上で重要な成果となった。			

森園遺跡5・天神田遺跡2・御笠の森遺跡8

大野城市文化財調査報告書第185集
令和3年3月31日

発行 大野城市教育委員会
〒816-8510 福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 株式会社 あすなろ印刷
鹿児島県鹿児島市城西2-2-36

